

視察報告書

視察における結果について、下記のとおり報告します。

令和4年8月22日

光市議会議長 中本 和行 様


光市議会 議員 仲小路 悦男

(会派 こう志会に同行)

記

- 1 視察日時 令和4年7月26日(火) 9時～12時
- 2 視察場所 山口県大島郡周防大島町
西蓮寺・旧普門寺・明治百年記念公園等
第二奇兵隊関係施設及び山口県大島庁舎
- 3 視察テーマ 第二奇兵隊
周防大島における足跡と明治維新への影響
- 4 視察結果 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和4年7月26日(火)9時～12時	 <p>(会派 こう志会に同行)</p>
場 所	山口県大島郡周防大島町	
テ ー マ	第二奇兵隊 周防大島における足跡と明治維新への影響	
講 師	普門寺住職 永本隆道 周防大島観光ボランティアガイドの会 光田伸幸	

<概要>

- ・四境の役大島口の戦についての歴史を学ぶ

まず、西蓮寺にて周防大島町ボランティアガイドの会の光田伸幸氏と会う。慶応2年(1866年)6月7日に幕府軍が砲撃して開戦したのが四境の役大島口の戦である。当初、幕府軍の攻撃で大島の守備隊は遠崎(現柳井市)に引き上げ大島は幕府軍に占領された。そこで遠崎に結集していた第二奇兵隊は大島奪還に向けて出帆し大島に上陸して、要害堅固の西蓮寺を総本陣とした。境内にはそれを示す石碑が建立されている。

光田氏より説明があり、以後は行動を共にして種々の説明を受ける。



次に、笛吹峠に行く。ここは制高作戦(山上を確保し高い場所から敵を見下ろして戦う作戦)と散兵戦術(兵士が横に散らばることによってあらゆる方向から攻撃する戦術)によって勝利した場所である。

続いて旧普門寺(帯石観音)に行く。ここは普門寺合戦で幕府軍を撃退した場所である。ここで住職の永本隆道氏より詳しい経過を伺い、第二奇兵隊の足跡などについても説明を受ける。併せて氏の著書「四境の役大島口」をいただく。

最後に久賀の海岸沿いにある明治百年記念公園を見学する。ここは四境の役大島口の戦の古戦場であり、当時活躍した人々を称えた記念碑がある。



明治百年記念公園の向かいにある山口県大島庁舎にて、光田・永本両氏と懇談的に質疑も交えながら、当時使用された銃などの説明も受ける。

<所感>

四境の役大島口の戦が始まり、最初に幕府軍が大島を占領したままであったら、大島を拠点として幕府軍の攻撃が優位に進み、長州軍の敗北もあり得た中で、第二奇兵隊の大島奪還作戦が成功したことは歴史の大きな転換点であり、大島で幕府軍を撃破したことによって明治維新へと向かったとも言えよう。また、制高作戦、散兵戦術を用いるなど作戦・戦術と併せてそれ遂行できたのは性能の優れた銃によることも大事な要素である。あらゆる知恵を出し体力を使い強い意志を持てば、困難を乗り越えることができると強く感じた。不可能と思えることにもどこかに解決の糸口があることを学んだ。

光市の石城山に第二奇兵隊の本陣があったことから、第二奇兵隊について深く学ぶことは大変に有意義であった。多くの光市民にこの歴史を学ぶ機会を作っていければと思う。それによって光市の課題解決の可能性も見えてくると思う。